

平成22年度
入学試験問題

国 語

特待生
前期

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 古本街をタンボウする。
- (2) 自分の意見をカンケツにまとめる。
- (3) 病気がカイホウに向かう。
- (4) 世界の動きについてコウサツする。
- (5) 人の意見にツイジュウしてばかりいる。
- (6) かわいいギョウソウで見ている人がいる。
- (7) 資料の内容についてケントウを加える。
- (8) 白雪をイタダいた山々。
- (9) よくネられた文章を読む。
- (10) 教訓を胸にキザむ。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

お茶を沸かしペットボトルに入れると、リユースになるし、お金

※

も節約できるのに、多くの人が実行せず、自販機で買うのは、時間がもったいないからですね。思想が優れていけばいるほど、それを形にする手段は多くなり、達成するのは困難になります。高嶺

1 ほど、つかみとるには膨大な時間がかかることになるので、

優れた思想にしたがうよい手段をいつも選択するわけにはいかず、劣った思想による手段を実践

2

ざるをえないのです。

逆に考えると、時間的負担が (A) ない手段を見つけると、

よい思想も実現できそうです。戦後から一九六〇年代ごろまでは、

買い物に行くお母さんは、(B)、竹や蔓で作られたきれいな

買い物かごやふろしきを持っていました。お店がサービスを強化す

るため、日常の買い物ではポリ袋をくれたり、贈り物やおみやげ

を買うときには、お店や商品の名前入りの紙製の袋をくれるように

なったので、この習慣はすたれてしまい、現在の姿が普通になった

のです。

しかし、よく考えてみると、あまり時間的負担は減っていないし、

(C) 使い捨てられ、ごみになっています。お店側から見

15

も、一枚数円もして経費がかかるので、昔のようにお客さんに持参してもらうと、支出も減らすことができます。時間的負担のあまり

2

ない、このリデュースなら実行できるかもしれません。

環境時代に入り、この先進的試みに挑戦して成功するお店が増

かんきょう

えてきました。日本で一番大きい生協の「コープこうべ」は、袋を

忘れると五円で買わなければならぬリデュース政策をいちはやく

導入し成功させました。会員制の生協は、事前に地域のお母さんた

ちと十分話し合い、「五円払うと損」と短絡する人を減らす努力を

かさねることができるところです。それでも、逃げるお客さんがゼロ

4

になるわけではありませんから、営業部の人には「慎重にしてほしい」

と、提案した環境部の人を牽制します。こんなときは、逃げるお客

※けんせい

さんがどのくらいいるかを

3

調査して、売り上げにそれほど

影響しないことを示し、営業部の人に納得してもらう必要があります。

ます。

ここを乗り切ったとしても、スタートすると、かならずトラブル

が発生します。事前に知らせていても、知らない人がいるのは避け

られません。いつものように買い物に来て、(D) 五円払わ

なければならぬことを知る人が少なからずいて、レジ係の人に怒っ

たり、電話で苦情を言うからです。そこで、お店や役所で、ちょっ

ときびしい環境政策を実行するときは、これら苦情を言う人に上手

35

20

に対応できるようにあらかじめ学習することになっています。

藤前干潟ひがたにごみが埋め立てられなくなった名古屋市は、大都市に

はめずらしくきびしいごみの分別を市民や事業者に求めました。三カ

月間で市役所にかかってきた苦情や批判の電話は二万件もあったそ

うです。職員は返事の仕方をよく学習し、誠実に説明したので、協

力する市民が増え、一九九八年にはじまったごみ減量・リサイクル

作戦はみごとに成功し、二〇〇三年には二五%も減りました。

しかし、「持っていない習慣が身についた消費者がメンドーと思っ

て怒るのでは？」と懸念する多くのお店は、買い物袋有料化政策を

実行できず、袋を持っていくとスタンプを押してくれ、たまると割

り引いてもらえる仕組みしか採用できません。この仕組みでは、協

力する人は来店者の一割程度にしかならず、袋のリデュースはごく

わずかになります。

⑥ コープこうべは、これら不満をいう人に誠実に対応した結果、初

年度の一九九五年、来店者の約八割の人が協力してくれ、試みは大

成功でした。しかし、忘れる人も多く、なんと五円玉が約一億円も

集まりました。このお金の一部を、以前から続けていた、地域で環

境活動をする人たちに助成する事業に新たに加えることにしました。

⑦ しかし、残念なことに協力する人は増えず、八年目の二〇〇二年度

では七割強に減っています。袋を忘れても、もらえる店が多いと、

持参する習慣を身につけるのは、⑧ いうは易し……ということがわか

ります。私も家を出てから思い出すけれど、取りに帰るのはメンドー

で、まあいいか、と思うことがよくあったので、今は薄いポリ袋を

いつもカバンに入れておくことにしています。

(森住明弘 『環境とつきあう50話』)

※リユース……再利用。

※牽制……相手に自由に行動させないこと。

※懸念……気にかかり、不安に思うこと。

問一 1 に入る漢字一字を答えなさい。

問二 2 に入るひらがな一字を答えなさい。

問三 (A) (D) に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

ア、たいてい イ、はじめて ウ、すぐに エ、あまり

問四 二字の熟語の読み方には「音・音」読み、「訓・訓」読み、「音・訓」読み、「訓・音」読み、

「音・訓」読み、「訓・音」読み、の四種類がありますが、

——線①「紙製」と、音読み訓読みの組み合わせが同じ熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、青空 イ、満腹 ウ、消印 エ、血液

問五 ——線②「リデュース」とはもともと「減少させる」「低減する」などという意味の言葉ですが、ここでは具体的に何を減らそうと言っているのですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

答えなさい。

ア、ペットボトルを使い捨てにするむだ

イ、買い物かごやふるしきを用意するむだ

ウ、店で渡す袋に関係するむだ

エ、環境問題を考える時間のむだ

問六 —— 線③について、「短絡する人」とは「ものごとを単純

に結びつけて行動する人」といった意味ですが、『五円払うと損』と短絡する人」がとると思われる行動は次のうちどれですか。一つ選び、記号で答えなさい。

ア、買い物袋に五円払うのはもったいないので、もう「コープこうべ」には行かない。

イ、買い物袋に五円払うくらいなら、自分で薄いポリ袋を用意する。

ウ、買い物袋に五円払うのを惜しんで、買った商品をそのままかかえて帰る。

エ、買い物袋に五円など払っていただけないと、店の人に苦情を言う。

問七 —— 線④とありますが、営業部の人は何を一番心配していると考えられますか。三十字以内で答えなさい。

問八 3 には「前もって」という意味の五字の言葉が入ります。

その言葉をこれより後の本文中から探し、ぬき出して答えなさい。

問九 —— 線⑤「協力する人」とは、この場合具体的にどのような行動をする人のことですか。十字以上十五字以内で答えな

さい。

問十 —— 線⑥とありますが、本文中から、不満を言う人への誠

実な対応の例を二十字以内でぬき出して答えなさい。

問十一 —— 線⑦とありますが、最終的に協力する人がふえない

のはなぜですか。その答えを次のようにまとめました。空らんにあてはまる語を、字数指定にしたがって本文中からぬき出しなさい。

どうしても I (三字) ことはあるし、持参するのは

II (四字) だという考えを全くなくすることも不可能だから。

問十二 ———線⑧「いうは易し……」に続く言葉を考えた上で、

この言い回しはどのようなことを言ったものか、わかりやすく答えなさい。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

小学五年生のおすかは、母（静代）に愛してもらえず、誕生日さえ祝ってもらえない悲しさから、声がでなくなってしまう。心配した周囲の人の協力もあり、おすかは栃木に住む祖父母の元に預けられることになる。

裏庭の池のそばに祖父は蜜蜂を飼っていた。

二つ並んだ四角い箱に、ぶんぶん羽音を立てて蜜蜂が出たり入ったりしていた。

——刺されたらどうしよう。どうしてじいちゃんは蜜蜂なんて飼うんだろ。

I
蜜蜂の羽音がするたびに、おすかは首をすくめ両手で顔をとおった。——蜜蜂なんか嫌い。いなきやいいのに。

おすかはへ A へ、蜜蜂の箱をにらんでいる。

「a 寸の虫にも b 分の魂、という諺があるのを知っているかい。」

祖父が訊いた。

——知らない。

おすかが首を振った拍子に、麦わら帽子がふわりと飛んで落ちた。

祖父は腰を屈めてそれを拾うと、あすかの長くやわらかな髪に寄せた。屈んだままで a 寸と b 分の大きさを、祖父は親指と人差し指で示した。

「小さくて弱いものにも、それなりに意地ってものがある。ばかにしてはいけないっていうような、そんな例えなんだがね。」

腰を伸ばして祖父は畑を見回した。

「畑にはたくさん命があるだろ。 a 寸の虫にも b 分の

魂は、この世に生を受けた者は、尊い心と命を持っている仲間なんだぞ、おろそかにしてはいけない。そういう教えのような気がしてね。できるだけ踏みつぶさないように、と心掛けているんだよ。」

あすかは祖父の言葉を心に入れた。仲間の命を大切にするように、祖父に倣ってあすかも心掛けようと思った。

——あすかにも、意地があっていいのかな。

——小さいからって、ぼんやりしているからって、ママがあすかをばかにするのは間違っているのかな。ママもあすかも同じ仲間なのか。

祖父はあすかの目をしっかりと見ていった。

「虫にも心があると思うと楽しいもんだ。じいちゃんにはたくさん友達がいいて、一緒に生きている。そう思うとな、心が豊かになるような気がしてくる。」

目の前を飛んでいったセミが、あすかの足下に落下した。あすか

はこわごわとした手つきでセミを拾い上げ、ナシの木の枝にのせた。荷物^かを担いで地面を這うアリ。アジサイの葉の上で語り合うテントウ虫^にが二匹。

——じいちゃんのいう通りだね。みんな、ちゃんと生きているよ。

① 虫への怖れや嫌悪感^{けんおかん}が、あすかの心から消えていった。

「見方を変えると、草花や虫の方で人間を観察しているのかもしれないぞ。いい仲間か悪い仲間か、しっかりと見極めているのかもしれないなあ。自然の恵み^{めぐみ}を② いただいて暮らしていると、思い当たることがよくあるよ。」

あすかの心の変化を祖父は感じていた。へ B へあすかを見つめている。照りつける日差しを避けて二人は木陰^{こかげ}に移動した。祖父の作った小さなベンチに並んで座った。首に巻いた空色のタオルで、祖父は顔の汗^{あせ}をぬぐった。

「蜜蜂は利口な昆虫^{こんちゅう}なんだ。人間がじたばたしていると、攻撃されたと思って反撃^{はんげき}をしてくる。恐怖^{きょうふ}を感じた時は、攻撃するより静かに相手の出方を見る方がいいぞ。まずは相手を信じてみることだ。」

——あ、大変。怖いよ、どうしよう。

あすかの顔が引きつった。祖父は動じない。蜜蜂はすぐに飛んで

いった。

「刺されることも、ま、たまにはあるが、それもいい経験になるさ。いいか、あすか。自分の側から見ていただけでは、物事の真理を見落とすぞ。相手を信じること、許すことは、自分を大事にすることもあるんだぞ。」

これもあすかはしっかりと心に入れようと思った。へ C へ
て、言葉の意味を咀嚼[※]する。難しい顔で考え込むあすかを見て、祖父はゆかいそうに笑った。

「少し理屈^{りくつ}をいすぎたかな。」

いいながら祖父は嬉し^{うれ}そうだった。あすかの心が動き始めている。じっくりと物事を考える力は、きっとあすかの救いになるだろうと思っていた。

「あすか、時間はたっぷりとある。ゆっくりと考えていいぞ。」

あすかの麦わら帽子をぼんぼんと叩いて、祖父は野菜畑に行った。腕組^{うでぐ}みをしてあすかは考える。考えあぐねて蜜蜂の箱の前に行った。

——刺されてもいい経験なんだよね。

そうは思っても、怖れ[※]で動悸^{どうき}が激しくなった。

——静かな気持ちで、相手を信じる……。

あすかはなるべく静かに屈んで目を閉じた。麦わら帽子を通して、じりじりと太陽が照りつけてくる。全身を汗が流れた。

静かな気持ちを持ち続けていると、あすかの心が落ち着いてきた。

怖れや不安の波が、おだやかに屈^ないでいく。蜜蜂の羽音が優しく聞こえた。

——信じるって、こんなふうにするんだね、じいちゃん。

自分を空っぽにして、傷つくことを怖れずに相手と向き合う。あすかにとって初めての体験^⑤だった。あすかははっとした。

——あすかは、ママを信じていなかったよ。

——ママが怖くて、ずっと逃げていたんだ……。

傷つくのを怖れて、あすかは相当ジタバタしていたような気がする。静代の側になって考えてみたことなど一度もなかった。

——みんな、ママのせいだと思っていたけど違うみたいだね。

——あすかは、自分で心の扉^{とびら}を閉めていたのかな。

——自分を信じる勇氣もあすかにはなかったのかな。

突然、涙^{なみだ}が溢^{あふ}れてきて止まらなくなった。あすかの小さな背中が震えているのを、祖父はすぐ後ろで見守っていた。

「思いつきり泣いたらいいよ、我慢^{がまん}することなどないぞ。なあ、あすか。」

あすかの背中に向かっていうと、祖父は空色のタオルをそっと目^⑥にあてた。

※咀嚼……かみしめるようによく考えて味わうこと。

※動悸……胸がどきどきすること。

問一へ A 〽へ C 〽に入る表現として適当なものをそれ

ぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア、眉根まゆねを寄せ イ、目を細め

ウ、首を長くし エ、頬ほおをふくらませ

問二 、に適当な漢数字をそれぞれ入れ、ことわざ

を完成させなさい。

問三——線①とありますが、なぜですか。次の文の空らんに入

る言葉を本文中から十五字以内でぬき出しなさい。

祖父の言うとおり、虫も なのだ実感したから。

問四——線②「いただいて」と同じ種類の敬語表現をふくむも

のを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、五時にもどるとおっしゃいました。

イ、乗車券を拝見します。

ウ、遠いところをようこそいらっしゃいました。

エ、あちらの方をご覧ください。

問五 —— 線③とありますが、なぜですか。その理由を四十五字以内で説明しなさい。

問八 —— 線⑥について、これは「祖父」のどのような様子を表現していますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

問六 —— 線④「考えあぐねて」の意味として最も適当なものを

次から選び、記号で答えなさい。

ア、うまく考えがまとまらずに困って

イ、考えた末に決断して

ウ、考えるのがばかしくなつて

エ、今までの考えを改めて

ア、「あすか」が恐怖心を乗り越え、自然に生きる虫たちを受け入れられるようになったことを喜び、涙ぐんでいる様子。

イ、静代に傷つけられ、それでもけなげに生きようとする「あすか」をかわいそうに思い、涙ぐんでいる様子。

ウ、傷つき、声をなくしていた「あすか」が、少しずつ心を開き成長していることをうれしく思い、涙ぐんでいる様子。

エ、静代に傷つけられた原因が自分にあったと思い、自分自身を責める「あすか」をあわれみ、涙ぐんでいる様子。

問七 —— 線⑤とありますが、「あすか」はどのようなことに気づいたのですか。四十五字以内で説明しなさい。

——

問九

~~~~~線ⅠとⅡを比べると「あすか」の蜜蜂に対する心の変化を読み取ることができません。その説明として最も適当なものの中から選び、記号で答えなさい。

ア、蜜蜂が自分を刺すのではないかとおびえていたが、小さな

蜂にとって怖いのは人間だとわかり、恐怖心がなくなった。

イ、蜜蜂の羽音をうるさく感じたのは、自らの心のざわめきの

せいだったとわかり、今は落ち着いて向き合えるようになった。

ウ、蜜蜂は怖い虫だと思っていたが、静かな気持ちを持つこと

で、利口な昆虫で人間を襲<sup>おそ</sup>うことはないとわかり、安心した。

エ、蜜蜂をただ恐れていたが、相手を信じる気持ちを持つこと

の大切さを知り、穏やかに向き合えるようになった。

問十 「あすか」にとって、「祖父」はどのような存在であると考え

られますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、少しでも早く立ち直れるように、たくさんの役に立つアド

バイスを与え、支えてくれる存在。

イ、何気ないながらも考えさせられる言葉を投げかけ、ゆっく

りと成長していくのを見守ってくれる存在。

ウ、苦手としている自然に囲まれた生活に少しでも慣れるよう

にと、危険を覚悟で自然の尊さを教えてくれる存在。

エ、間違っているのは「ママ」ではなく自分なのだということ

を、傷つけないように優しく教えてくれる存在。